

令和6年度島根県統計グラフコンクール 特選作品講評

○第1部 特選



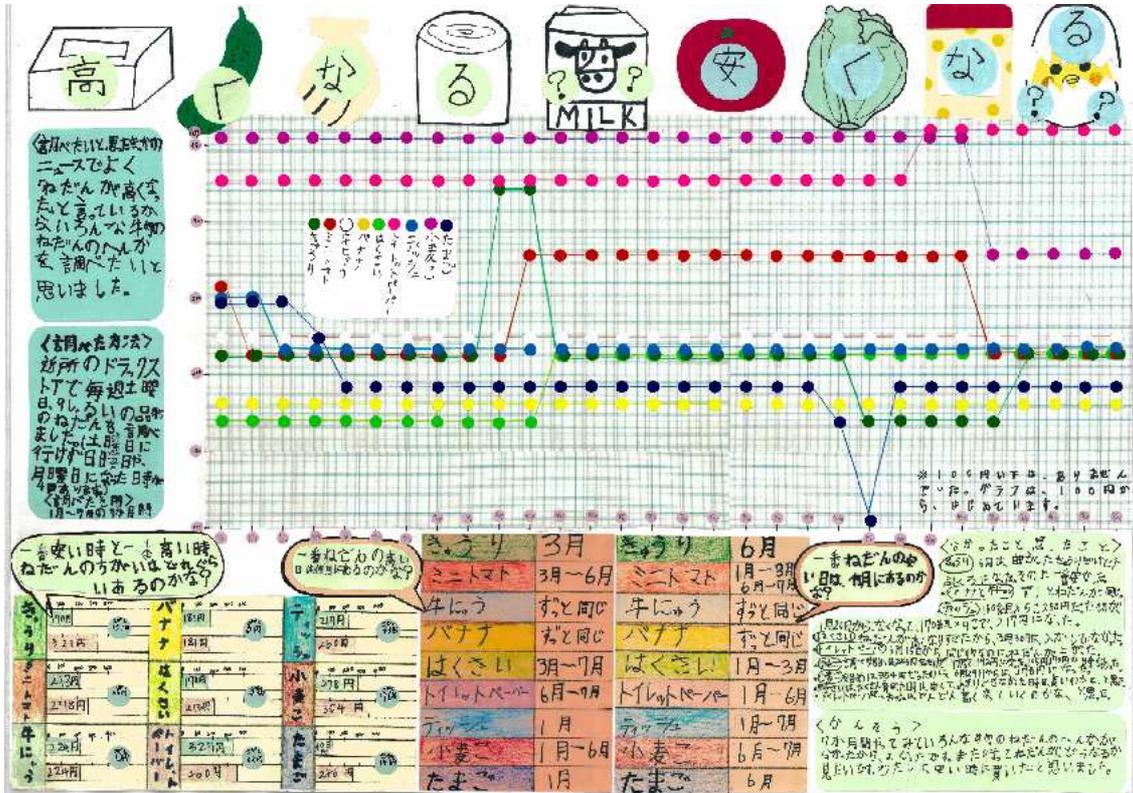
「のびるのびーるとどうなっとう!？」

松江市立内中原小学校 2年 影山 敦士

自ら納豆を混ぜ、回数と混ぜたもの別の2つのアプローチからデータをまとめている子どもらしい発想の作品です。

結果もグラフとして見やすく、絵と図、色合いもきれいに表現されています。

○第2部 特選



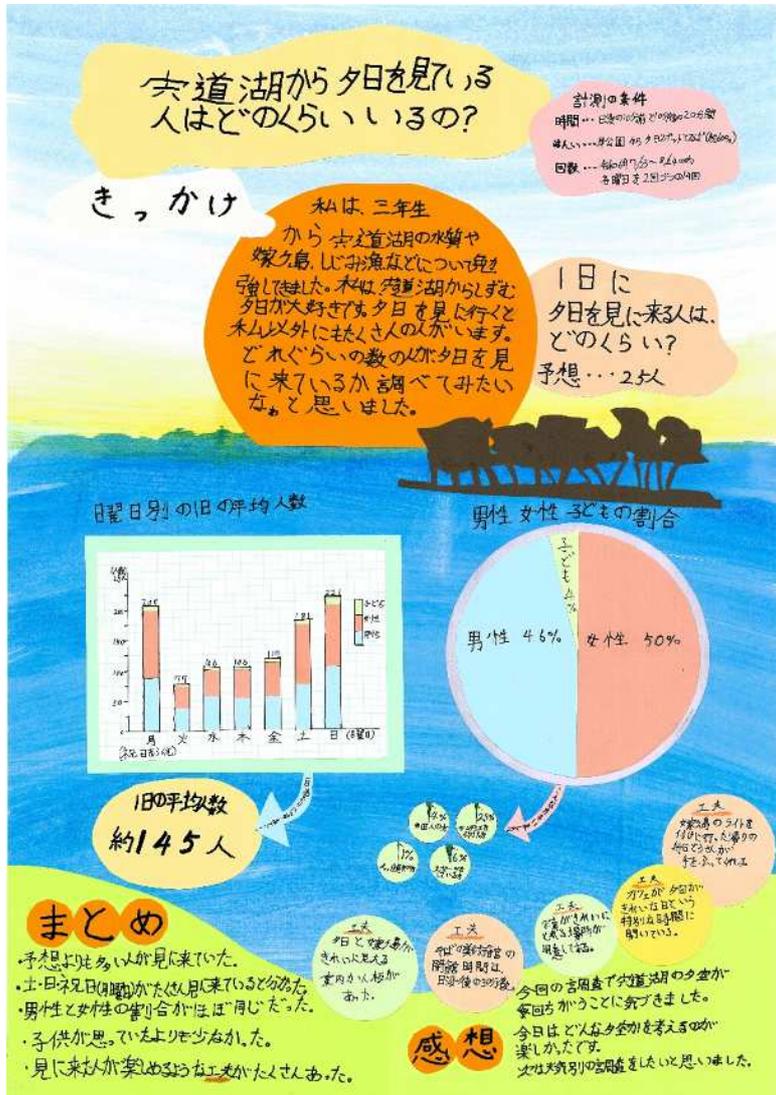
「高くなる??安くなる??」

松江市立城北小学校 3年 神田 桃

ニュースでも話題となっている物価について買い物についていく楽しみのなかで小学生の視点で切り込んでいく発想がすばらしいです。

長期間に渡って定期的にデータを取得しており、価格の推移が一目で分かる作品となっています。

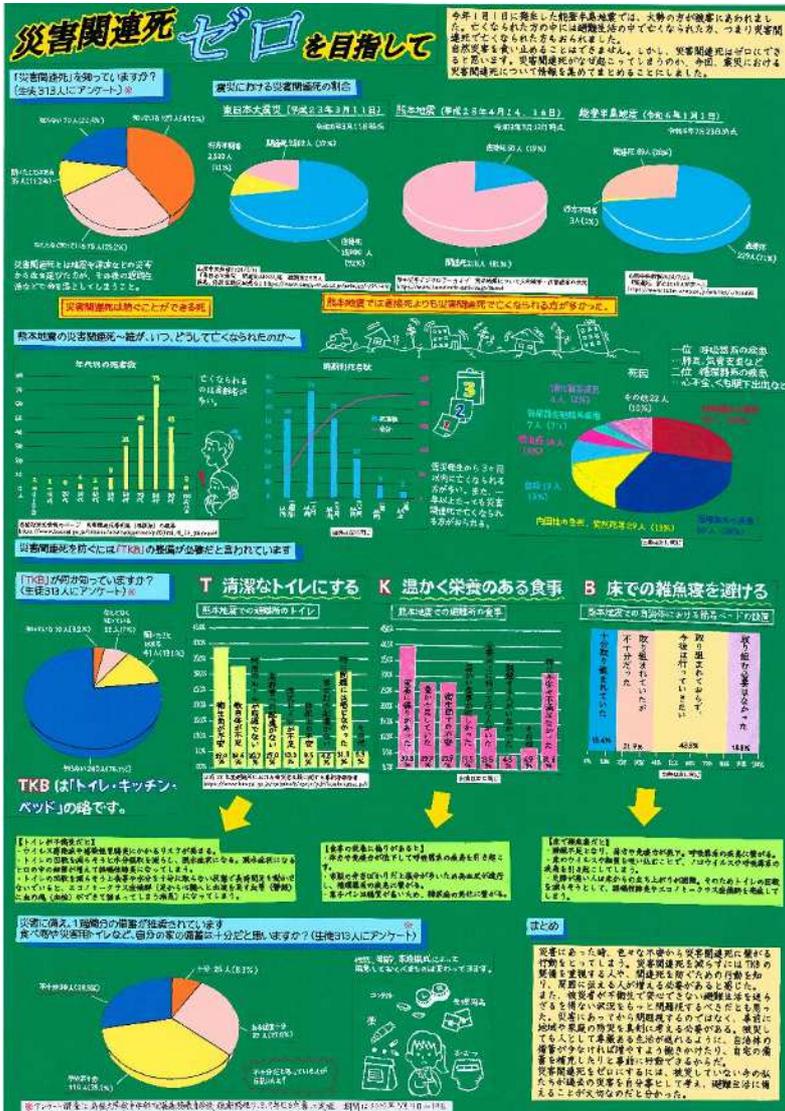
○第3部 特選



「宍道湖から夕日を見ている人はどのくらいいるの？」
 松江市立乃木小学校 5年 村山 冬華

テーマが地域性に富んでおり、郷土愛が感じられます。地元の良さを数値によって確かめ、グラフで表すことで客観的に捉え、これからの松江に思いを寄せている作品です。現地に足を運び、データを取っている姿勢がすばらしいです。作品全体の見た目も美しく、心に入ってきやすい好印象の作品です。

○第4部 特選

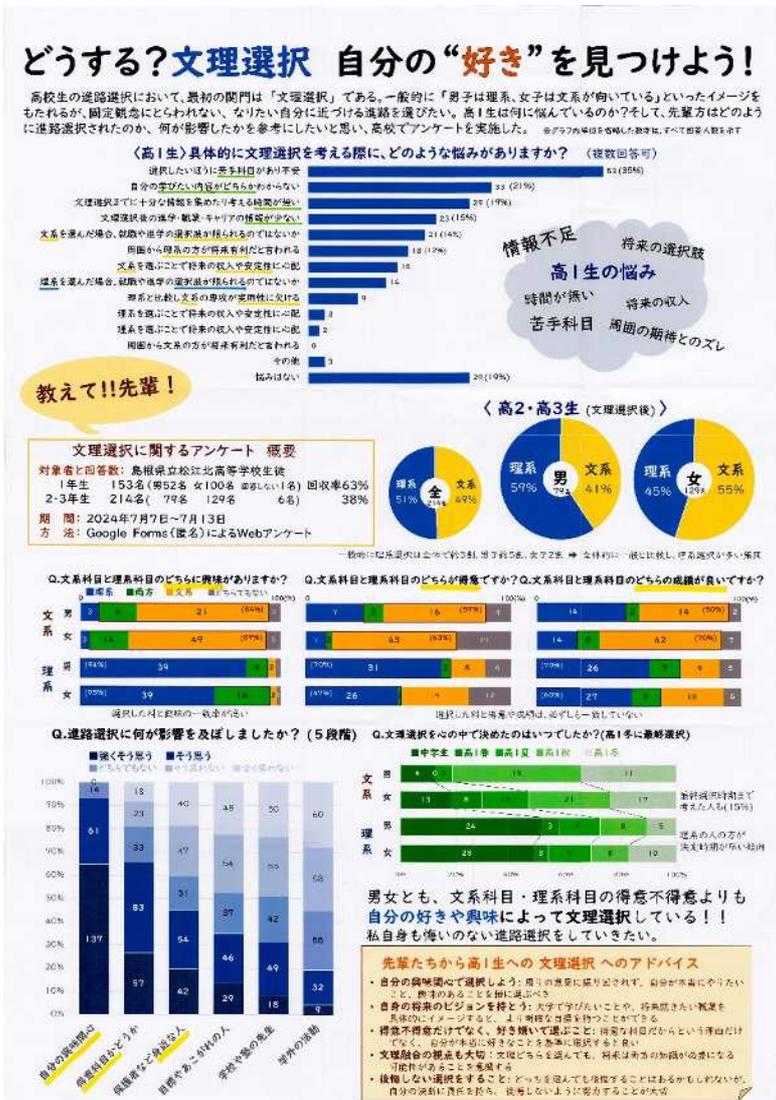


「災害関連死ゼロを目指して」

島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程 3年 片岡 睦深

緻密な紙面の構成でビジュアル的にも素晴らしいです。グラフの意味をよく理解していて、見る人に内容が分かりやすく伝わる作品となっています。災害発生時に注意すべきことが啓発されていて、これからの暮らしに生きる作品です。

○第6部 特選



「どうする？文理選択 自分の“好き”を見つけよう！」
 島根県立松江北高等学校 1年 岩本 実久

高校生らしいテーマで、他の学年にもアプローチしている点が素晴らしいです。自分の将来を統計的に整理し、後輩へのアドバイスに繋げている点も評価できます。未来をどう描くかという統計の良さを存分に生かした素晴らしい作品となっています。